

(トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/>)

(GDP (IMF WEO)：<http://mylibrary.maedal.jp/GDP.html>)

マイライブラリー：0582

(注)本稿は2023年7月29日から8月4日まで4回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.8.9

前田 高行

IMF 世界経済見通し：群を抜き 6%以上の高成長を続けるインド(1)

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook Update、July 2023)」(以下、WEO)を発表した。このレポートでは全世界、EU、ASEANなどの主要経済圏及び日米中印など主な国々の2021年(実績)から2024年(予測)まで4年間のGDP成長率が示されている。

本稿では今年(2023年)及び来年(2024年)の成長率を比較し、また前回4月の経済見通しに対してGDP成長率がどのように修正されたかを検証する。そして2021年から2024年の4年間の成長率の推移を比較する。さらに過去6回の経済見通し(昨年4月、7月、10月、今年1月、4月及び今回)で今年の成長率がどのように見直されてきたかを精査する。

*WEO レポート:

<https://www.imf.org/ja/Publications/WEO/Issues/2023/07/10/world-economic-outlook-update-july-2023>

(今年の世界の成長率は前回4月見通しを0.2%上方修正し3.0%に！)

1. 2023年のGDP成長率(末尾表1-B-2-08参照)

今回7月見通しでは今年の世界の成長率は3.0%とされており、前回4月の2.8%から0.2%上方修正されている。ウクライナ紛争の先行きは見えないが、マクロ経済は着実に回復しているものと見られる。

経済圏別に見るとEU圏の2023年の成長率は0.9%であり、4月の数値を0.2%アップしている。またASEAN5カ国も4.5%から4.6%に上方修正されている。これに対して中東・中央アジア諸国は2.9%から2.5%に引き下げられている。EU/東南アジア経済圏が不況を脱したのに対し、石油・天然ガスの産出国が多い中東・中央アジア諸国は、エネルギー価格が不安定で成長率が鈍化しているようである。

国別では今年の成長率は米国1.8%、日本1.4%、ドイツ▲0.3%、英国0.4%、ロシア1.5%、中国5.2%、インド6.1%である。インドの成長率は世界で最も高く、世界平均(3.0%)の2倍以上である。中国はコロナ禍以前に二桁の高い成長を続け、その後急激に減速したが、それでも世界平均を上回っており、インドと中国が世界の成長をけん引している。これに対し

てヨーロッパ諸国は上記の通り EU 圏の成長率が 1%を下回り、ドイツは主要国の中で唯一マイナス成長と見込まれている。

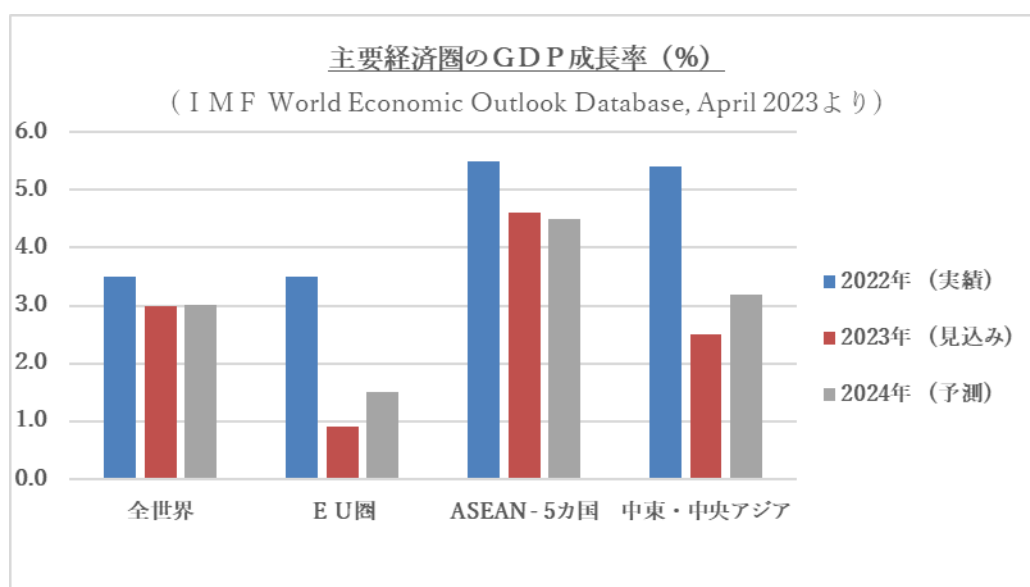
産油国のサウジアラビアは 1.9%であり、前回 4 月見通しの 3.1%が大幅に下方修正されている。同じ産油国のロシアは逆に 4 月見通しの 0.7%が 1.5%に上方修正されている。ロシアは欧米先進国から経済制裁を受けているが、中国、インドが同国原油を安値で輸入するなどロシア経済への影響力はさほど大きくないのが現実のようである。

2. 2022 年～2024 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-11 参照)

主要な経済圏と国家の昨年(実績見込み)、今年(予測)及び来年(予測)の GDP 成長率の推移を見ると以下の通りである。

(今年は減速、来年は回復の年！)

2-1 主要経済圏



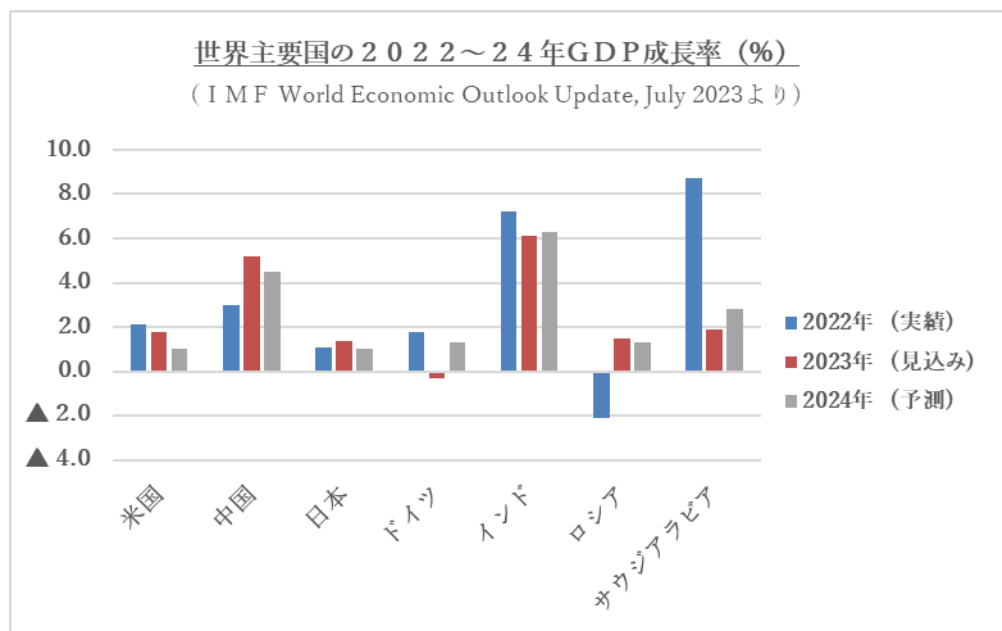
全世界の 3 年間の成長率は 3.5% (2022 年) →3.0% (2023 年) →3.0% (2024 年) であり、3%前後で推移する見通しである。コロナ禍からは回復する一方、ウクライナ危機が長引き景気の下振れ要因が強く、今年と来年の世界の GDP 成長率は停滞すると見込まれる。

ウクライナ危機の影響を最も大きく受けるのは EU 圏である。3 年間の成長率は 3.5% →0.9% →1.5% とされ、今年は 3 年間で成長率が大きく落ち込んでおり、他の経済圏と比べても際立って低い。ASEAN5 カ国の成長率は 5.5% →4.6% →4.5% であり、世界平均を上回る高い成長率を維持する見通しである。

産油・ガス国が多い中東及び中央アジアの成長率はエネルギー価格の騰落に大きく影響され、3 年間の成長率の推移は 5.4% →2.5% →3.2% と見込まれている。昨年はエネルギー価格高騰の恩恵が大きかったが、今年は世界平均を下回り、来年は今年を少し上回る成長率で推移する見通しである。

(中国を上回る高い成長率を続けるインド！)

2-2 主要国



米国の昨年の成長率は 2.1%であったが、今年(1.8%)、来年(1.0%)と連続して成長が鈍化する見通しである。日本の成長率は 1.1%→1.4%→1.0%と 1%台前半の低成長を続けるものとみられている。日本と同様先進工業国であるドイツの成長率は 1.8%→▲0.3%→1.3%であり、今年マイナス成長になると予測されている。同国は原料のエネルギー輸入価格が高騰する一方、世界景気の低迷で輸出が伸び悩んでいることが低成長の大きな要因と考えられる。

中国は 3.0%→5.2%→4.5%であり、昨年から今年にかけて経済成長を回復するものの、その勢いは持続せず来年は 5%以下にとどまると予測されている。コロナ禍以前は二桁台の成長率を誇っていたことに比べ中国の成長率は伸び悩んでいる。これに対してインドの成長率は 7.2%→6.1%→6.3%であり、世界平均を大きく上回る 6%以上の高い成長を維持する見込みである。

中国、インドなどと共に新興経済国 BRICS の一翼を担ってきたロシアの成長率は対照的な様相を呈している。昨年(2022 年)は一昨年に引き続くマイナス成長(▲2.1%)であり、今年(1.5%)、来年(1.3%)はプラスながらも低い成長率にとどまると予測されている。ウクライナ紛争は未だ終息の見通しが立っておらず、ロシアの今年の成長率がさらに下がる可能性は否定できない。

産油国サウジアラビアの 3 カ年の成長率は 8.7%→1.9%→2.8%であり、昨年は原油価格高騰の恩恵を受けたが、今年及び来年は世界景気の回復が遅れる一方インフレによる輸入価格の高騰のため、昨年のような高い成長率は期待できないようである。

3. 2023年GDP成長率見直しの推移

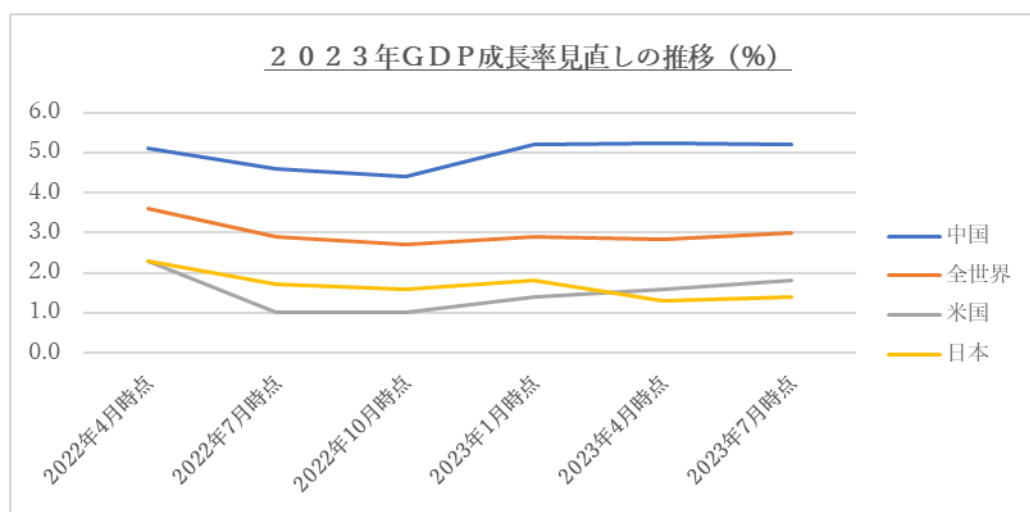
IMFの世界経済見通しは毎年4月、10月に全世界200弱の国について成長率の見直しが行われ、さらに1月及び7月には主要な国と経済圏の成長率が発表されている。主要な国と経済圏については3カ月ごとに検証されていることになる。

最近の特徴はコロナ禍、ウクライナ紛争、エネルギー価格の高騰など国際経済を取り巻く環境の不透明感が増していることである。このためIMFの成長率見通しも3カ月ごとに大きく変動すると言う特徴が見られる。

ここでは直近6回（2022年4月、7月、10月、2023年1月、4月及び今回7月）のレポートで今年の成長率がどのように見直されたかを検証する。

(5%前後で推移する中国、1%台に据え置かれる日本！)

3-1 全世界及び日本、米国、中国



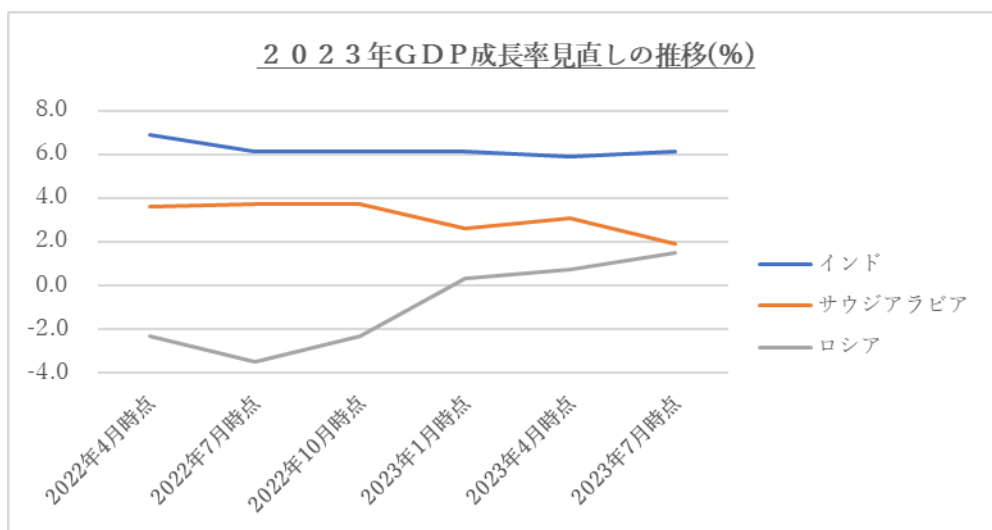
直近6回のIMF経済見通しにおける2023年の世界のGDP成長率は2022年4月見通しでは3.6%であったが、その後7月には2.9%、10月は2.7%と下方修正され、今年1月に2.9%、7月には3.0%と見直されている。

米国は2.3%→1.0%→1.0%→1.4%→1.6%→1.8%と変化している。2022年7月には大きく下方修正されたが、今年は年初から3回続けて上方修正されている。中国の場合は、5.1%→4.6%→4.4%→5.2%→5.2%→5.2%であり、昨年4月から2回連続して成長率が下落したものの、今年は一転して5%台の成長率が想定されており、世界に先駆けて景気回復に向かうものと見込まれている。

日本の2023年成長率の過去1年間の数値は2.3%→1.7%→1.6%→1.8%→1.3%→1.4%と見直されている。昨年4月に成長率が1%台に下方修正された後、現在まで低い成長率が据え置かれている。エネルギー価格の急騰は日本経済のアキレス腱であり、このことが早期の成長率回復の障害になっているようである。

(OPEC+の盟主サウジとロシアに明暗、インドは6%の高度成長！)

3-2 ロシアとサウジアラビアとインド



サウジアラビアとロシアは米国と並ぶ三大産油国であり、両国は OPEC+(プラス)の盟主として最近協同減産体制により石油価格の下落を抑え込んでいる。昨年4月時点では2023年の成長率見直しはサウジアラビア 3.6%、ロシア▲2.3%であり、同年2月のウクライナ紛争発端が両国の明暗を分けた形であった。

紛争により石油価格が急騰したことは輸出国のサウジアラビアに大きな追い風となった一方、紛争当事者のロシアは制裁の影響を受け経済に深刻な懸念が生まれた。2022年10月までの両国の成長率予測はほぼ同じ水準で維持されてきた。しかし今年1月はロシアの成長率が0.3%とプラスに見直された一方、サウジアラビアの成長率は2.6%に下方修正され、両者の格差は縮小した。さらに今回7月にはサウジアラビア 1.9%、ロシア 1.5%に見直され両国の格差はさらに縮小している。

米国を中心とする先進国による経済制裁が続いているにも関わらずロシアの成長率が上方修正されていることは、インド、中国をはじめとするグローバルサウスの国々が欧米先進国と共同歩調を取らず、或いはこれを奇貨としてロシアから安価なエネルギーを輸入し続けている現状を反映したものとみられる。

アジアの経済大国であるインドの2023年のGDP成長率予測の推移は、6.9%(2022年4月時点)→6.1%(7月)→6.1%(10月)→6.1%(本年1月)→5.9%(4月)→5.9%(7月時点)である。昨年7月に下方修正され今回に至っているが、それでもインドの今年の成長率は世界平均を大きく上回る見直しである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
 E-mail; maedal@jcom.home.ne.jp

MENAと世界主要国のGDP実質成長率(2023-24年)

国名	2023年7月見通し(今回)			2023年4月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	増減	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)
全世界	3.0	3.0	0.0	2.8	3.0	0.2	0.0
米国	1.8	1.0	▲ 0.8	1.6	1.1	0.2	▲ 0.1
EU圏	0.9	1.5	0.6	0.8	1.6	0.2	▲ 0.1
ドイツ	▲ 0.3	1.3	1.6	▲ 0.1	1.1	▲ 0.2	0.2
日本	1.4	1.0	▲ 0.4	1.3	1.0	0.1	▲ 0.0
英国	0.4	1.0	0.6	▲ 0.3	1.0	0.7	0.0
中国	5.2	4.5	▲ 0.7	5.2	4.5	▲ 0.0	0.0
インド	6.1	6.3	0.2	5.9	6.3	0.2	▲ 0.0
ASEAN-5ヶ国	4.6	4.5	▲ 0.1	4.5	4.6	0.1	▲ 0.1
ロシア	1.5	1.3	▲ 0.2	0.7	1.3	0.8	0.0
中東・中央アジア諸国	2.5	3.2	0.7	2.9	3.5	▲ 0.4	▲ 0.3
サウジアラビア	1.9	2.8	0.9	3.1	3.1	▲ 1.2	▲ 0.3

Source: IMF World Economic Outlook April & July 2023(update)

GDP 対前年伸び率(%、2023年7月値)

	2022年 (実績)	2023年 (見込み)	2024年 (予測)	2023/2022 年	2024/2023 年
全世界	3.5	3.0	3.0	▲ 0.5	0.0
米国	2.1	1.8	1.0	▲ 0.3	▲ 0.8
E U圏	3.5	0.9	1.5	▲ 2.6	0.6
ドイツ	1.8	▲ 0.3	1.3	▲ 2.1	1.6
日本	1.1	1.4	1.0	0.3	▲ 0.4
英国	4.1	0.4	1.0	▲ 3.7	0.6
中国	3.0	5.2	4.5	2.2	▲ 0.7
インド	7.2	6.1	6.3	▲ 1.1	0.2
ASEAN-5 ヶ国	5.5	4.6	4.5	▲ 0.9	▲ 0.1
ロシア	▲ 2.1	1.5	1.3	3.6	▲ 0.2
中東・中央アジア諸国	5.4	2.5	3.2	▲ 2.9	0.7
サウジアラビア	8.7	1.9	2.8	▲ 6.8	0.9

Source:IMF World Economic Outlook Update July 2023